

2022年度
事業報告書

事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2022年 4月 1日

至：2023年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

■ 盲導犬の育成・貸与事業

1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

1) 盲導犬貸与目標11頭に対し、7頭を貸与した。

・貸与地域：道内5頭(代替5名)・道外2頭(新規1名神奈川県・代替1名秋田県)

・盲導犬実働数77頭(年度末時点・前年比△4頭)

2) 2022年度の訓練犬21頭に対して、10頭が盲導犬の作業における訓練基準認定目標を達成した。その中から、健康面や日常生活面等の状況を踏まえて2023年度の盲導犬申込者にマッチングする。

(2022年度訓練犬21頭の内訳)

2022年度適性評価合致	19頭	2021年度適性評価合致	2頭
--------------	-----	--------------	----

3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化するため、ユーザーサポート担当を設け、フォローアップ体制を強化すると共に、他部門と連携し希望者の顕在化に取り組んだ。

・ユーザーサポート担当により、青森県・新潟県・山形県・宮城県・秋田県・山梨県・長野県在住の計23名のユーザーの定期フォローアップ及び3名の緊急フォローアップを実施し、歩行の安全性向上、問題発見、ニーズ把握に取り組んだ。また、ユーザーから3件の意向受け対応した。

・新型コロナウイルス感染予防に対応する指導体制を継続し、感染防止のため、共同訓練は在宅訓練を中心にして実施した。また、オンラインを活用して在宅訓練中の指導員とケース会議を実施し、共同訓練修了に向けて指導員間で意見交換を行ったほか、オンラインによる共同訓練修了式を行

い、協会全体で祝福した。

・盲導犬PPバッヂを改良し、ユーザーへの頒布を開始した。また、合皮製ハーネスの耐久性向上を目指して、改良品を試作した。

4) 2023年度の資格認定を目標として盲導犬歩行指導員1名の養成に引き続き取り組んだ。養成カリキュラム改訂版は次年度の完成を目指す。

2. 繁殖に関すること

1) 出産頭数は60～75頭（出産件数15腹前後）の計画に対して70頭であった。

出産件数	出産頭数	委託頭数	譲渡頭数	譲受頭数
15腹	70頭	58頭	12頭	0頭

- ・出産頭数は、死産や出産後死亡、育仔中にCCとなった犬を除く。
- ・70(出産)-12(他施設譲渡)=58(委託)
- ・譲渡は、他施設への繁殖協力や子返しのため実施したものである。

2) 繁殖犬として新たに8頭を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めた。

- ・繁殖犬導入 ラブラドル6頭（オス1、メス5） ゴールデン2頭（メス2）
- ・現繁殖犬数 オス 12頭 メス 33頭
- ・引退繁殖犬数 オス3頭 メス 27頭

3) パピー犬58頭に対してGD-Bartテストを実施し、その結果のデータを整理した。データは、アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称: AGBN)に提出していく。

4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けて、年間繁殖計画及び繁殖犬飼育委託体制について説明会を実施して、理解促進を図った。

- ・12/17, 18開催 参加 オス犬5家庭 メス犬7家庭

5) 引退繁殖犬のケアの充実を図るため、その内容を整備し、2023年度から実施していく。

・引退繁殖犬のケアの内容

① 処遇の明確化

処遇が変更した時点で適宜文書にて処遇をお知らせする。

② 情報提供

10歳以上の犬を飼育しているボランティアに対して、老犬の管理に関する心構えや方法について情報提供していく。

③ 管理状況把握

1年に1回、生活状況に関する報告用紙を提出してもらい、管理状況を把握していく。また、健康検査を実施して犬の健康状況を把握していく。

6) パピー犬全頭に股関節・肘関節レントゲン検査を実施できる体制を目指し、取り組んだ。

・実施頭数 10頭

・毎年委託するパピー犬全頭にレントゲン検査を実施できる体制を整えることを目指し、札幌小動物獣医師会に検査頭数の拡大をお願いした。

3. パピーウォーキングに関すること

1) 2023年度訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を58頭委託した。

・2-(1)実務実績の表による。

2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を計画通りに実施した。

・委託終了までの間に、講習会を4回及び家庭訪問を3回実施して、パピーの飼育指導にあたった。

・パピー講習会、委託式 52回実施

・家庭訪問 210回実施

3) パピーウォーカーとの連絡報告・フィードバックをより効果的に行えるよう、システムづくりを検討し、実行した。

・これまでパピーウォーカーに口頭で説明していた内容について、資料作成して確実に連絡できるよう体制を整えた。しかし、特に緊急時などの連絡に課題を残しており、今後の検討課題とする。

4. ケネル・老犬ホームに関すること

1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問を担当者間で分担し、委託している高齢犬の飼育環境を整えるアドバイスを充実させた。また、委託している老犬の来所時にもその都度アドバイスを行えるように努めた。

・老犬飼育委託者向けの「老犬通信」を3回発行し、老犬の飼育、病気に関する情報を提供した。

・管理頭数 68頭

2) PR犬として必要な作業の意識づけを行うため、PR犬の管理方法を再考し、老犬ケネル担当でハーネス歩行、体験歩行を取り入れた。また、PR犬の委託制度導入に向けて委託要件を整理・確認した。制度設計に引き続き取り組む。

3) 犬舎内衛生環境の強化

・除菌消臭剤の効果を高めるため、提供企業からの助言をもとに使用方法をマニュアル化し統一した。また、効果は提供企業にフィードバックした。

・感染症拡大防止のため消毒等の対策を強化した。

ケネルコフ、コクシジウム症発生の際に消毒を徹底し、感染拡大防止に努めた。また、定期的な犬用食器の消毒を開始し、細菌による接触感染を予

防した。

5. 研修に関すること

1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップを図った。

・日本歩行訓練士会「夏季研修」に指導部職員3名が参加した。(6/12)

・社会福祉法人日本視覚障害者能力開発センター「ロービジョンセミナー」に指導部職員1名が参加した。(7/30)

・視覚障害リハビリテーション協会「第30回視覚障害リハビリテーション研究発表大会」に指導部職員2名が参加した。(8月～9月オンデマンド配信)

・全国盲導犬施設連合会加盟施設職員相互研修会「対応困難ケース(8/30・2/7)」指導部職員3名、「クレーム対応(9/7)」事務部指導部職員各1名、「犬舎管理(2/24)」指導部職員2名、「防災訓練(2/24)」事務部職員2名・指導部職員1名が参加した。

・北海道警察による日本信号株式会社の「信GO!(シンゴー)」アプリケーション説明会(6/17)に指導部職員3名、同アプリケーションを利用する高度化PICS体験会(3/7)に指導部職員2名が参加した。

・新千歳空港で実施された日本科学未来館主催のAIスーツケース実証実験に指導部職員1名が見学参加した。(7/29)

・日本歩行訓練士会「視覚障がい者の踏切事故防止に向けた取り組みに関するシンポジウム」に指導部職員3名が参加した。(12/3)

・日本歩行訓練士会「スキルアップ研修会」に指導部職員1名が参加した。(10/28、11/18、12/23、1/27、2/17)

2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため他施設の見学は見送ったが、オン

ラインを通じて専門職間の情報交換を行い、学び合う機会とした。

3) 自己啓発内規の利用率を高める。

・日本ドッグビヘイビアリスト協会認定ドッグトレーナーの資格を指導部職員2名が取得した。(7/20)

・日本臨床獣医学フォーラム第24回年次大会2022に指導部職員1名が参加した(9/22～12/9オンデマンド配信)

・PD-TENカンファレンス「犬の運動器疾患と異常行動について考える」に指導部職員1名が参加した。(10/7)

6. 犬具飼料等の頒布に関すること

1) 盲導犬ユーザー、飼育委託ボランティアが購入する犬具・飼料について、卸業者からの仕入れにより標準価格の7割程度で頒布して費用負担の軽減に努めた。なお、急激な物価上昇による影響は避けられなかった。

・取扱数 飼料12件 犬具270件

2) 盲導犬ユーザー、生活訓練受講生を中心に歩行補助具・日常生活用具の情報提供及び頒布を行い、日常生活をサポートした。

・取扱数 用具49件

■ 普及啓発事業

1. 盲導犬の普及啓発に関すること

1) 盲導犬体験会を実施した。

・9名に盲導犬体験会を実施し、3名の盲導犬貸与申込みに繋がった。

2) 行政機関等を訪問し関係づくりを行うとともに、当事者・行政機関向けのリーフレットを作成し配布した。

- ・青森県、新潟県、山形県、宮城県、秋田県の役所や視覚支援学校、当事者団体を12件訪問し、当協会の事業の説明や次年度以降の地域での盲導犬体験会の実施の打診などを行った。また、説明時に配布するリーフレットを新しく作成し、当協会の特徴がよりわかりやすくなるよう工夫した。

- ・不特定多数の方に向けて盲導犬情報を発信することにより当事者に繋がることを期待するとともに、新しいターゲット層（若年層）の開拓を目的として、Twitterを9/2より開始した。

3) 盲導犬受入れの理解を図ることを目的とした講習会を開催した。

- ・三井住友信託銀行札幌支店の従業員に盲導犬受け入れ・接客セミナーを行った。(5/11)

- ・雪印メグミルク酪農と乳の歴史館の従業員に盲導犬受け入れ・接客セミナーを行った。(8/18)

- ・遠軽信用金庫中央支店の従業員に盲導犬受け入れ・接客セミナーを行った。(1/14)

4) 教育機関・福祉事業者・自治体等が実施する盲導犬講習会に講師を派遣し、盲導犬と視覚障害の理解を広げた。

- ・教育機関 37件(幼稚園7/小学校9/中学7/高校4/専門学校8/大学2)
教職員向け1件(とうべつ学園)

- ・福祉事業者2件(札幌市手稲区社会福祉協議会/札幌市子ども育成連合会)

5) 関係団体・商業施設・支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施した。

- ・苫小牧市白鳥王子アイスアリーナ、札幌ドーム、アリオ札幌店他55か所で啓発活動を実施した。

6) 個人を対象としたオンライン見学会を年4回計画し実施した。

5/29 札幌・上富良野・砂川などから14名参加

8/ 5 札幌・旭川・東京などから13名参加

12/17 札幌・剣淵・士幌などから10名参加

3/30 札幌・千歳・東京などから12名参加

7) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げた。

・新デザインのオリジナル商品5種を製作し、協会来所者や啓発イベントを中心に頒布した。(Tシャツ・エコバック・軍手・うちわ・ボールペン)

・頒布実績341件(協会来所者314件 啓発イベント27件)

8) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を2回発行した。

・7/15 第73号17000部発行 ・1/24 第74号20000部発行

9) コロナ禍における盲導犬情報の発信力を強化するために、ホームページ、動画コンテンツの充実を図った。

・協会YouTubeチャンネルに動画7本を掲載した。

4/22 盲導犬協会の犬たち～お休みの過ごし方～

7/ 5 密着！共同訓練～盲導犬の引退、そして次の一歩へ～

9/12 子犬たちのその後～委託終了式～

11/15 北海道盲導犬協会 慰霊式～愛犬たちへ想いを込めて～

12/25 北海道盲導犬協会の犬、大集合！～2022年、感謝の気持ちを込めて

1/ 7 北海道盲導犬協会、年初め2023

2/11 北海道盲導犬協会 雪道をゆく～2023年 冬景色～

・年度末時点 チャンネル登録者数1,861名

■ 調査研究事業

1. 調査・研究に関すること

- 1) 受精卵移植技術の確立を目指して、共同研究機関に3頭分の受精卵提供を行った。
- 2) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力した。
・繁殖に関すること(3)参照

■ その他事業

1. 財源確保に関すること

- 1) 協会ホームページに啓発イベント・募金活動情報及び動画配信等の新着情報を27回掲載して協力者拡大や継続支援に繋げた。

寄付者数	1,683件	延べ寄付者数	2,564件
------	--------	--------	--------

- 2) 支援企業12社から協賛金を募り、ポスター型カレンダー5500枚を制作して支援者等に広く配布し、継続支援を依頼した。
- 3) サポート会員の新規会員目標200件に対して、142件の新規申込を受けた。
また、サポート会員に対して計画的に継続支援依頼書を送付して、1858件の会員継続を受け付けた。

	全体	個人会員	法人会員
新規会員数	142件	141名	1社
継続会員数	1,858件	1,800名	58社
当年度会員数	2,000件	1,941名	59社

- 4) 募金箱の新規目標200か所に対して、434か所に設置した。

また、既設募金箱の定期訪問回収と設置者への送金の依頼、設置状況の確認を行う等、募金箱を適切に管理し、5123か所からの募金入金があった。

	全体	札幌市	道内	道外
新規設置数	434件	224件	198件	12件
除台数	212件	119件	83件	10件
総設置数	7,175件	3,615件	3,065件	495件

5) 新型コロナウイルス感染拡大状況を見極めながら街頭募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図った。

- ・北海道どさんこプラザ札幌店2回実施

4/6, 7, 8, 11 各日12:00～14:30

9/14, 17, 20 各日12:00～14:30

- ・イトーヨーカドー帯広店1回実施

9/11 10:00～13:00

2. 関連団体との協力連携に関すること

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、国際盲導犬連盟、北海道盲導犬ユーザーの会、各地域の当協会盲導犬使用者の会との協力・連携を図ったほか、北海道運輸局による駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関する意見交換会に出席するなどして社会環境整備に参画した。

3. その他

車両更新計画に基づき訓練車両1台の民間助成金申請を行い、助成決定を受けた。

(助成交付内容)

- ・申請車両 トヨタノア

- ・ 総事業費 324万円
- ・ 助成申請額 243万円（助成申請上限75%）
- ・ 助成申請先 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団
- ・ 助成交付決定 10月1日付
- ・ 助成額 210万円（助成率64.8%）

※2023年6月納車予定

社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

1. 生活訓練の実施に関すること

- 1) 新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて短期入所訓練を実施した。実施回数及び指導数は、計画10回10～15名に対し、12回16名を受入れた。また、新規訓練希望者は、目標4名に対し7名を受入れた。

(実績)

		訓練日程	期間	受入人数				計
				札幌市内		道内		
				新規	継続	新規	継続	
上半期	1	4月 4日～ 4月15日	2週間			1		1
	2	5月20日～ 5月29日	1週間				1	1
	3	6月13日～ 6月24日	2週間				1	1
	4	7月11日～ 7月22日	2週間		1			1
	5	7月22日～ 8月 4日	2週間			1		1
	6	9月 5日～ 9月16日	2週間	2				2
	7	9月26日～10月 8日	2週間			1		1
下半期	8	10月17日～10月28日	2週間			1	1	2
	9	11月 7日～11月18日	2週間			1	1	2
	10	11月28日～12月 9日	2週間		1		1	2
	11	2月13日～ 2月24日	2週間				1	1
	12	3月 6日～ 3月17日	2週間				1	1
			合計	2	2	5	7	16

- 2) 新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて通所及び訪問による指導を実施した。指導数は月平均5.25ケースであった。

※通所及び訪問による指導数は、受講者毎に訓練期間が異なるため、実施数は月平均とした。

- 3) ケース会議を実施し、訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定した。

- ・入所訓練：各クラス終了後に実施
- ・訪問・通所訓練：4半期に1回実施

- 4) 新型コロナウイルス感染予防による入所数制限の影響を軽減するため、受

け入れを延期した入所希望者に対して「臨時の訪問指導」を実施した。実施数は8名延べ15回訪問訓練を実施した。

2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

1) 当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために、道内の視覚障がい者・関係者に対して、相談セミナーを開催した。

- ・7/31 北見市視覚障害者相談会 参加者43名 うち当事者22名
- ・9/4 江別市視覚障害者情報交換会 参加者80名

2) 盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体の行事等に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行った。また、オンライン開催に必要な機材貸し出しなど行い開催・運営に協力した。

【参加実績】

- ・ロービジョンケア北海道(札幌)：会場参加5回、※ハイブリット参加6回(うち3回は協会が会場となった。また、オンラインは協会の機材を貸出した。)
- ・ロービジョンケア旭川(旭川)：会場参加1回、オンライン参加5回、
- ・ロービジョンケア十勝(帯広)：会場参加1回、オンライン参加3回、※ハイブリット参加4回(オンラインは協会の機材を貸出した。)
- ・ロービジョンケア十勝の参加者より盲導犬貸与申込1名、生活訓練受講希望1名があった。

※ロービジョンケアの集まり：視覚障がい者と歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の3カ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの

場としての役割もある。コロナ禍でオンライン開催が増えている。

※視覚障がい者団体：ここでは札幌市視聴覚障がい者情報センター、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会等を指す。

※ハイブリット参加：協会職員が会場とオンラインの二つの方法にて参加したものを指す。

- 3) 道内の医療・福祉・教育機関及び視覚障がい者に視覚障害リハビリテーションを普及啓発するため「第1回ロービジョンケア講習会」（「教育・体験セミナー」より改称）を北海道眼科医会と共同でオンライン開催した。（5/14）
 - ・運営側の手違いにより申込者143名に対し、オンライン参加できた方は100名となった。そのため講習会動画2本を協会YouTubeチャンネルにて申込者に配信した。（配信期間6/6～7/3 再生回数「開会式及び講演」編49回
「補装具・日常生活用具紹介、手引き・白杖講習」編33回）
 - ・次年度は7月15日にACUを会場として実施することを決定した。
- 4) ロービジョンケアを実施している医療機関を対象に行う日常生活用具展示会及び相談会は、旭川医科大学病院にて展示会1回、相談会2回を実施した。
- 5) 道内の移動支援従事者や同行援護従事者を対象としたフォローアップ研修実施のため、オンライン講習用テキストを作成した。また、臨時の訪問指導（1-4項参照）の機会を利用して、同行援護従事者へ歩行時の対応について説明を行った。
- 6) 生活訓練受講者に協会行事や訓練・日常生活用具等の情報を提供するため、「手引き」「白杖」「補装具・日常生活用具」に関する講習動画を視覚障がい者が視聴しやすいように編集し、限定公開に向け準備を行った。公開は協会YouTubeチャンネルにて次年度を予定している。

管理部門 <法人会計>

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行った。

1) 理事会の開催状況

第44回理事会 6月10日 第46回理事会 3月17日

第45回理事会 11月17日

2) 評議員会の開催状況

第27回評議員会 6月27日 第28回評議員会 3月27日

3) 三役会、経営会議の開催状況

第1回経営会議 4月26日 第7回経営会議 10月25日

第2回経営会議 5月19日 第8回経営会議 11月29日

第3回経営会議 6月29日 第9回経営会議 12月20日

第4回経営会議 7月26日 第10回経営会議 1月25日

第5回経営会議 8月25日 第11回経営会議 2月20日

第6回経営会議 9月27日 第12回経営会議 3月6日

2. 防災対策及び犬舎の暑さ対策の取り組み状況

1) 犬舎・トレーニング室の冷房設備設置を目的としたクラウドファンディングの実施は次年度の継続課題とした。

2) 本棟自動火災報知設備更新に伴う業者を選定した。改修工事は次年度に実施する。

3) その他、施設保全計画に基づき本棟訓練棟の建物調査診断を実施し、次年度の改修工事に向けた準備に着手した。

3. 新型コロナウイルス感染防止に関する取り組み状況

- ・政府、北海道、札幌市の指針等を踏まえ協会ガイドラインの見直しを行ったほか、感染時の出勤自粛基準を策定して一貫性のある判断や行動を促した。

4. 人事異動等

- ・指導部職員1名退職
- ・事務部パート職員2名退職、1名採用
- ・指導部パート職員2名退職、1名採用

5. 動物の愛護および管理に関する法律の改正に関連する取り組み

- ・検討会を12回開催し、犬舎管理や健康管理、犬舎環境についてのガイドライン案を作成した。

6. 施設に関すること

1) 施設所在地

北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1

2) 施設の状況（敷地面積や建物の状況）

敷地面積 3306㎡

本棟（構造等）耐火造地上3階 床面積442.16㎡ 延べ面積1100.88㎡

（主設備）事務室・食堂・厨房・入所生室5・生活訓練室2

相談室1・浴室男女・手入れ室・ホール

訓練棟（構造等）耐火造地上一部3階

床面積985.07㎡ 延べ面積1432.18㎡

（主設備）指導員室・調理室・老犬ホーム・訓練犬室・治療室

犬の浴室・交配室・隔離室・研修室・ボランティア室

3) 職員の在籍状況

		常勤	パート	非常勤	備考
	所 長	1			
事務部	総務・普及	2			
	経 理	2	2		
指導部	生 活 訓 練	3			白杖指導員2人、生活指導員1人
	繁殖・ハッピー	3	1	1	非常勤者は実働月4日
	盲導犬訓練	3			指導員2人、訓練士1人
	ユーザーサポート	1			
	老犬ケネル	2	4	4	非常勤者は夜間宿直業務実働月8日
	施設管理	1			
		18	7	5	

4) 盲導犬歩行指導員等の資格保有状況（他業務従事者含む）

	男	女	備考
盲導犬歩行指導員	3	2	
盲導犬訓練士	1		
白杖歩行指導員	1	2	
生活訓練指導員	1	1	
	6	5	